

入 札 説 明 書

【電子入札システム対応】

令和 7 年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壌汚染状況調査業務

令和 7 年 6 月

国立研究開発法人国立環境研究所

当研究所の一般競争に係る入札公告（令和7年6月19日付）に基づく入札については、関係法令に定めるもののほか、この入札説明書による。

1. 競争入札に付する事項

- (1) 件 名 【電子入札システム対応】令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壌汚染状況調査業務
- (2) 契約期間 契約締結日から令和7年9月30日まで
- (3) 仕様 仕様書による。
- (4) 履行場所 仕様書による。
- (5) 入札保証金 免除
- (6) 契約保証金 免除

2. 競争参加に必要な資格

- (1) 令和7・8年度環境省競争参加資格（測量・建設コンサルタント等）の「建築関係建設コンサルタント業務」、「土木関係建設コンサルタント業務」又は「地質調査業務」の資格を有し、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県又は東京都内に本店、支店又は営業所を有する者であること。
- (2) 国立研究開発法人国立環境研究所契約事務取扱細則第5条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者については、同条中、特別の理由がある場合に該当する。
- (3) 国立研究開発法人国立環境研究所契約事務取扱細則第6条の規定に該当しない者であること。
- (4) 契約者等から取引停止の措置を受けている期間中の者でないこと。
- (5) 入札説明書において示す暴力団排除等に関する誓約事項に誓約できる者であること。
- (6) 土壌汚染対策法第3条に規定する指定調査機関に指定されている者であること。
- (7) 本業務の業務責任者として、以下の1)及び2)の要件を全て満たす者を配置できる者であること。
 - 1) 土壌汚染調査技術管理者の資格を有すること。
 - 2) 下記に示される「同種業務」で、土壌汚染状況調査業務の実績（平成27年4月1日以降に業務を完了したものに限る。）を有すること。
 - ・同種業務：敷地面積が10,000㎡以上である土壌汚染調査

3. 入札心得

- (1) 入札参加者は、仕様書及び添付書類を熟読のうえ、入札しなければならない。
- (2) 入札参加者は、前項の書類について疑義があるときは、関係職員の説明を求めることができる。
- (3) 入札参加者は、入札後、仕様書及び添付書類についての不明等を理由として異議を申し立てることはできない。

4. 電子入札システムの利用

本件調達は電子入札システムで行うため、同システムの電子認証（代表者又はその委任を受けた者のＩＣカードに限る。）を取得していること。

・<https://www.ebs-cloud.fwd.ne.jp/CALS/Accepter/index.jsp?name1=06A0064006A00600>

なお、同システムによりがたい者は、紙入札方式によることができる。ただし、紙入札方式参加届（別紙1）を7.（1）に示す期間及び場所に提出すること。提出は、書面の持参若しくは郵送又は電子メールによること。

5. 入札及び開札の日時及び場所

令和7年7月17日（木）14時00分

国立研究開発法人国立環境研究所 研究本館Ⅱ 1階 第1会議室

（茨城県つくば市小野川16-2）

6. 入札説明書等に対する質問

(1) 入札説明書に対する質問がある場合においては、次に従い、質問書を提出すること。

①提出期間：令和7年6月19日（木）から令和7年6月25日（水）16時00分まで。

②提出場所：〒305-8506

茨城県つくば市小野川16-2

国立研究開発法人国立環境研究所 総務部会計課契約第一係

TEL 029-850-2775（担当：林）

③提出方法：電子メールによるデータ（指定様式（※））の送付とする（データ送付先：chotatsu@nies.go.jp）。なお、メールの件名を【質問の提出（令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壤汚染状況調査業務）（担当：林）】とすること。

※当研究所WEBサイトに掲載（本公告掲載先と同一ページ）

(2) (1)の質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供する。

①期 間：令和7年7月1日（火）10時00分から

令和7年7月17日（木）14時00分まで。

②閲覧場所：当研究所WEBサイト（本公告掲載先と同一ページ）

(3) (1)の質問がない場合、(2)については行わないものとする。

7. 入札参加資格証明書類等の提出

(1) 入札に参加しようとする者は、本入札説明書2. (1)、(6)及び(7)の証明書類を次に従い提出すること。なお、(6)については資格を証明するものとして証明書の写しを、(7)については資格を証明するものとして資格者証の写し及び実績等を証明するものとして契約書の写し等を添付すること。

①提出期限：令和7年7月10日（木）16時00分

②提出場所：本入札説明書6. (1)②と同じ

③提出方法：書面は持参、又は郵送（書留郵便等の配達記録が残る方法に限り、受領期間必着とする。）により提出する。また、電子入札システム（同システムにより入札する者に限る。）若しくは電子メール（送付先：chotatsu@nies.go.jp）による電子データの提出も可とする。メールの場合、件名を【入札参加資格証明書類の提出（令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壤汚染状況調査業務）（担当：林）】とすること。

(2) (1)のとおりに提出された書類による本競争参加の可否については、次の期間までに連絡をする。

①期 間：入札日及び開札の2営業日前17時00分。

8. 入札及び開札

(1) 電子入札の場合

①7. (1)①の日時までに、電子入札システムの証明書等提出画面において、2.

(1)、(6)及び(7)の競争参加資格を有することを証明する書類を提出すること。

②5. の日時までに、同システムに定める手続に従って入札を行うこと。通信状況によっては当該期限内に入札情報が到着しない場合があるので、時間的余裕を持って行うこと。

③入札金額については、1. (1)の業務に関する一切の費用を含めた額とする。

④落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に課税対象金額の10%に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その金額を切り捨てるものとする）をもって落札価格とするので、入札参加者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず見積もった契約金額から課税額を除いた金額を入力するものとする。

⑤同システムにより入札した場合には、本入札説明書において示す暴力団排除等に関する誓約事項に誓約したものとして取り扱うこととする。

⑥入札者又は代理人等は、開札時刻に同システムの端末の前で待機しなければならない。

⑦事由のいかにかわらず入札の引換え、変更又は取消しを行うことができない。

⑧入札参加者が連合し、又は不穏の行動をなす等の場合において、入札を公正に執行する

ことができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し、若しくは取りやめることがある。

(2) 紙入札の場合

- ①入札書（別紙2）には、入札参加者の住所、氏名を記入し、金額の記入はアラビア数字を用いて鮮明に記載すること。なお、郵送による提出の際は入札書に入札回数（第○回）を記載すること。
- ②入札書及び入札に係る文書に使用する言語は、日本語に限るものとし、また入札金額は、日本国通貨による表示に限るものとする。
- ③入札金額については、1.（1）の業務に関する一切の費用を含めた額とする。
- ④落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に課税対象金額の10%に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その金額を切り捨てるものとする）をもって落札価格とするので、入札参加者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず見積もった契約金額から課税額を除いた金額を入札書に記載するものとする。
- ⑤入札書は、別紙の書式により作成し、封かんの上で持参又は郵送により提出するものとする。
- ⑥入札書を持参する場合は、入札書を封かんし、入札参加者の商号又は名称、入札件名及び開札日時を記載し、入札及び開札日に入札箱に投入すること。
- ⑦新型コロナウイルスによる感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため、当面の間郵送による入札書の提出は3通まで認めることとする。入札書を郵送により提出する場合は、二重封筒とし、表封筒に入札書在中の旨を朱書きし、中封筒に入札参加者の入札参加者の商号又は名称、入札件名及び開札日時並びに入札回数（○回目）を記載して書留郵便（配達証明付）により、次に従い郵送すること。
提出期限：入札及び開札の前日（※）16時00分
※土・日曜日、祝祭日及び年末年始（12月29日から1月3日）を除く。
提出場所：本入札説明書6.（1）②と同じ
- ⑧入札参加者は、入札書を提出する際には、本入札説明書2.（1）の競争参加資格を有することを証明する書類を提出すること。
- ⑨入札参加者は、代理人又は復代理人（以下「代理人等」という。）をして入札させるときは、その委任状（別紙3、4）を持参させなければならない。
- ⑩入札参加者又はその代理人等は、当該入札に対する他の入札参加者の代理をすることができない。
- ⑪開札は、入札参加者の面前で行う。ただし、入札参加者又はその代理人等が開札場所に出席しないときは、入札執行事務に関係のない職員を立会させて開札する。この場合、異議の申し立てはできない。
- ⑫入札参加者又はその代理人等は、開札時刻後においては、開札場に入場することはできない。
- ⑬提出済の入札書は、その事由のいかんにかかわらず引換え、変更又は取消しを行うことができない。
- ⑭入札参加者が連合し、又は不穏の行動をなす等の場合において、入札を公正に執行することができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し、若しくは取りやめることがある。

9. 入札の無効

次の各号に該当する入札書は無効とする。

- (1) 競争に参加する資格を有しない者の提出した入札書
- (2) 紙入札において、委任状を持参しない代理人等の提出した入札書
- (3) 紙入札において、記名を欠いた入札書
- (4) 入札金額の記載が不明確な入札書
- (5) 入札金額の記載を訂正した入札書
- (6) 誤字、脱字等により意志表示が不明瞭である入札書
- (7) 明らかに連合によると認められる入札書
- (8) 同一事項の入札について、他の入札参加者の代理人等を兼ねた者の入札書

- (9) 同一入札執行回について、入札参加者又はその代理人等が二通以上の入札書を提出した場合
- (10) その他の入札に関する条件に違反した入札書

1 0. 落札の決定

本入札説明書2の競争参加資格及び仕様書等の要求要件を全て満たし、当該入札書の入札価格が国立研究開発法人国立環境研究所契約事務取扱細則第13条の規定に基づいて作成された予定価格の範囲内で、最低の価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格が調査基準価格を下回る場合は、落札決定を保留の上、低入札価格調査を実施することとし、落札者となるべき者はこの調査に応じなければならない。低入札価格調査の結果、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき又は、その者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち最低の価格をもって入札した者を落札者とする。

1 1. 再度入札

開札した場合において、入札参加者の入札のうち予定価格の制限に達した価格の入札が無いときは、直ちに再度の入札を行う。なお、再度入札の回数は原則として2回を限度とする。

ただし、郵便による入札を行い、開札当日に入札参加者又はその代理人等が開札場所に出席しない場合においては、入札書の提出数以降の再度入札による入札に参加できないため注意すること。

1 2. 同価格の入札が2人以上ある場合の落札者の決定

- (1) 落札者となるべき同価格の入札をした者が2人以上あるときは、電子入札システムによる電子くじにより落札者を決定する。電子入札システムにより入札を行う場合は、入札時に任意の3桁の数字を入力すること。紙入札による場合は、入札書(別紙2)の記載欄に任意の3桁の数字を記載すること。なお、入力された数字は乱数処理により変換された数字により落札者を決定するため、指定した数字が直接判定に用いられるものではない。
- (2) 前項の場合において、数字の指定を行わない者があるときは、職員が任意の数字を入力する。

1 3. 落札内訳書の提出

- (1) 落札者は、落札者の決定後すみやかに落札額に応じた内訳書を提出すること。なお、内訳書は、可能な限り詳細に記載すること。
- (2) 内訳書の様式は自由とする。
- (3) 内訳書は返却しない。

1 4. 契約書等の提出

- (1) 契約書を作成する場合においては、落札者は、契約担当者等から交付された契約書の案(別紙5)に記名押印し、速やかにこれを契約担当者等に提出しなければならない。
- (2) 契約書及び契約に係る文書に使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨による。
- (3) 契約担当者等が契約の相手方とともに契約書に記名押印しなければ、本契約は確定しないものとする。

1 5. 契約者の氏名

国立研究開発法人国立環境研究所 理事長 木本 昌秀

1 6. 入札結果及び契約情報の公表について

① 入札結果の公表

落札者が決定したときは、その入札結果(落札者を含めた入札者全員の商号又は名称及び入札価格)について、開札場において発表するとともに電子入札システムにおいて公表する予定である。

② 契約情報の公表

契約を締結したときは、後日当該契約情報を当法人のHPにおいて公表する。

独立行政法人が行う契約については、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針(平成22年12月7日閣議決定)」において、独立行政法人と一定の関係を有する法人と契約をする場合には、当該法人への再就職の状況、当該法人との間の取引等の状況について、情報を公開する等の取組を進めることとされている。これに基づき、以下のとおり、当法人との関係に係る情報を当法人のHPで公表することとするので、所要の情報の当法人への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくようお願いする。なお、応札若しくは応募又は契約の締結をもって、同意されたものとみなすこととする。

1) 公表の対象となる契約先

次のいずれにも該当する契約先

ア. 当法人において役員を経験した者が再就職をしていること又は課長相当職以上の職を経験した者が役員、顧問等として再就職していること

イ. 当法人との間の取引高が、総売上高又は事業収入の3分の1以上を占めていること

2) 公表する情報

上記に該当する契約先との契約(予定価格が一定の金額を超えない契約や光熱水の支出に係る契約等は対象外)について、契約ごとに、物品・役務等の名称及び数量、契約締結日、契約先の名称、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表する。

ア. 前記②1)アに該当する再就職者の人数、職名及び当法人における最終職名

イ. 当法人との間の取引高

ウ. 総売上高又は事業収入に占める当法人との間の取引高の割合が、次の区分のいずれかに該当する旨

・ 3分の1以上2分の1未満

・ 2分の1以上3分の2未満

・ 3分の2以上

エ. 一者応札又は一者応募である場合はその旨

3) 提供を求める情報

ア. 契約締結時点における前記②1)アに該当する再就職者に係る情報(人数、職名及び当法人における最終職名)

イ. 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当法人との間の取引高

4) 公表の時期

契約締結日の翌日から起算して原則72日以内(4月中に締結した契約については原則93日以内)

17. 電子入札システムの操作及び障害発生時の問合せ先

電子入札システム ポータルサイトアドレス

: <https://www.nies.go.jp/osirase/chotatsu/kokoku/e-bidding/index.html>

ヘルプデスク 0570-021-777 (受付時間: 平日 9:00~12:00 及び 13:00~17:30)

Email: sys-e-cydeenasphep.rx@ml.hitachi-systems.com

(別紙1)

年 月 日

紙入札方式参加届

国立研究開発法人国立環境研究所理事長 殿

住 所
商号又は名称
代 表 者 名

下記入札案件について、紙入札方式での参加をいたします。

件名： 令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壤汚染状況調査業務

担当者等連絡先

部署名 :

担当者名 :

責任者名 :

T E L :

E-mail :

(別紙2)

入札書

金 _____ 円

電子くじに入力する数字（任意の3桁）：

件名 令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壤汚染状況調査業務

上記金額をもって貴所入札説明書承諾のうえ入札します。
御採用のうえは確実に履行いたします。
なお、入札説明書別紙6の暴力団排除等に関する誓約事項に誓約します。

年 月 日

住 所

商号又は名称

代 表 者 名

国立研究開発法人国立環境研究所 理事長 殿

担当者等連絡先

部署名 :

担当者名 :

責任者名 :

TEL :

E-mail :

<記入例>

入札書

金 _____ 円

※仕様書で示す業務内容及び業務契約期間に係る一切の費用を記載（電子入札システムでは入力）すること。

電子くじに入力する数字（任意の3桁）：

件名 令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壤汚染状況調査業務

上記金額をもって貴所入札説明書承諾のうえ入札します。
御採用のうえは確実に履行いたします。
なお、入札説明書別紙6の暴力団排除等に関する誓約事項に誓約します。

××年××月××日

住 所 ○○県○○市○○1-2-3

商号又は名称 株式会社△△△△

代 表 者 名 代表取締役□□□□

<（復）代理人◎◎◎◎>

※代理人又は復代理人が入札する際は、代表者に代わり
代理人又は復代理人が記名すること

国立研究開発法人国立環境研究所 理事長 殿

担当者等連絡先

部署名 :

担当者名 :

責任者名 :

TEL :

E-mail :

(別紙3)

年 月 日

委任状

国立研究開発法人国立環境研究所 理事長 殿

住 所
商号又は名称
代 表 者 名

今般、私は、 を代理人と定め、令和7年6月19日付け公示された国立研究開発法人国立環境研究所の「令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壌汚染状況調査業務」に関し、下記の権限を委任いたします。

受任者：住 所

商号又は名称

役 職 ・ 氏 名

記

1. 本入札に係る一切の権限
2. 1. の事項に係る復代理人を選任すること

担当者等連絡先

部署名 :

担当者名 :

責任者名 :

TEL :

E-mail :

(別紙 4)

年 月 日

委 任 状

国立研究開発法人国立環境研究所 理事長 殿

住 所
商号又は名称
氏 名

今般、私は、 を復代理人と定め、令和 7 年 6 月 1 9 日付け公示された国立研究開発法人国立環境研究所の「令和 7 年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壌汚染状況調査業務」に関し、下記の権限を委任いたします。

受任者：住 所

商号又は名称

役 職 ・ 氏 名

記

1. 本入札に係る一切の権限

担当者等連絡先	
部署名	:
担当者名	:
責任者名	:
T E L	:
E-mail	:

(別紙5)

契 約 書 (案)

国立研究開発法人国立環境研究所 理事長 木本 昌秀 (以下「甲」という。) と、 (以下「乙」という。) とは、次の条項により契約を締結する。

1. 件 名 令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壌汚染状況調査業務
2. 契 約 金 額 総額 金 円 (うち消費税額及び地方消費税額 円)
3. 契 約 期 間 自 契約締結日 至 令和7年9月30日
4. 契約保証金 免除
5. 契約履行の場所及び業務内容 別添仕様書のとおり

(信義誠実の原則)

第1条 甲乙両者は、信義を重んじ誠実に本契約を履行しなければならない。

(権利義務の譲渡等)

第2条 乙は、本契約によって生じる権利又は義務の全部若しくは一部を、甲の承諾を得た場合を除き第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、信用保証協会及び中小企業信用保険法施行令 (昭和25年政令第350号) 第1条の3に規定する金融機関に対して売掛債権を譲渡する場合にあっては、この限りでない。

(義務の履行)

第3条 乙は、別添仕様書に基づき、頭書の金額をもって頭書の期間中に義務を完全に履行しなければならない。

(再委託等の禁止)

第4条 乙は、業務の処理を第三者 (再委託等先が乙の子会社 (会社法 (平成17年法律第86号) 第2条第3号に規定する子会社をいう。) である場合も含む。以下同じ。) に委託し又は請け負わせてはならない。但し、再委託等承認申請書 (別紙) を甲に提出し、甲の承認を得たときは、この限りではない。

※再委託等の取り扱いについては、仕様書及び「契約における再委託等の取扱いについて」 (当研究所HPに掲載) を参照すること。

掲載先 : <https://www.nies.go.jp/osirase/chotatsu/saiitaku.pdf>

(監督職員)

第5条 甲は、乙の業務実施について、自己に代って監督又は指示する監督職員を選定することができる。

- 2 監督職員は、本契約書及び仕様書に定められた事項の範囲内において業務の施行に立会い、又は必要な指示を与えることができる。

(業務の報告等)

第6条 甲は、必要と認めたときは、乙に対して業務の実施状況について報告を受け、又は説明を求める等の措置をとることができる。

2 乙は、甲が前項の報告を依頼し、又は書類の提出を求めたときはすみやかにこれに応じるものとする。

(業務内容の変更)

第7条 甲は、必要がある場合には、業務の内容を変更することができる。この場合において、契約金額又は契約期間を変更するときは、甲乙協議して書面によりこれを定めるものとする。

(契約の解除)

第8条 甲は、次の各号の一に該当するときは、催告することなくこの契約の全部又は一部を解除することができる。

一 乙の責に帰する事由により、乙がこの契約の全部又は一部を履行する見込みがないと認められるとき。

二 乙が第4条、第17条又は第18条の規定に違反したとき。

三 乙又はその使用人が甲の行う監督及び検査に際し不正行為を行い、又は監督者等の職務の執行を妨げたとき。

四 履行期限内に成果品の提出がなかったとき。

2 甲は、乙が次の各号の一に該当すると認められるときは、催告することなくこの契約を解除することができる。

一 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき

二 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき

三 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき

四 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき

五 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

3 甲は、乙が自ら又は第三者を利用して次の各号の一に該当する行為をした場合は、催告することなくこの契約を解除することができる。

一 暴力的な要求行為

二 法的な責任を超えた不当な要求行為

三 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為

四 偽計又は威力を用いて甲等の業務を妨害する行為

五 その他前各号に準ずる行為

4 甲は、前三項の規定により、この契約の全部又は一部を解除した場合は、既に乙に支払った契約金額の全部又は一部を乙に返還させることができる。

(再受任者等に関する契約解除)

第9条 乙は、契約後に再受任者等（再受任者、及び乙又は再受任者が当該契約に関して個別に契約する場合の当該契約の相手方をいう。以下同じ。）が第8条第2項及び第3項の一に該当する者（以下「解除対象者」という。）であることが判明したときは、直ちに当該再受任者等との契約を解除し、又は再受任者等に対し契約を解除させるようにしなければならない。

2 甲は、乙が再受任者等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは再受任者等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該再受任者等との契約を解除せず、若しくは再受任者等に対し契約を解除させるための措置を講じないときは、催告することなくこの契約を解除することができる。

（違約金）

第10条 次に掲げる場合のいずれかに該当したときは、乙は、甲の請求に基づき、契約金額の100分の10に相当する金額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。

一 甲が第8条又は第9条第2項の規定により契約の全部又は一部を解除したとき。

二 乙について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成16年法律第75号）の規定により選任された破産管財人が契約を解除したとき。

三 乙について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成14年法律第154号）の規定により選任された管財人が契約を解除したとき。

四 乙について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定により選任された再生債務者等が契約を解除したとき。

五 この契約に関し、乙が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第3条の規定に違反し、又は乙が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が乙に対し、独占禁止法第7条の2第1項（独占禁止法第8条の3において準用する場合を含む。）の規定に基づく課徴金の納付命令（以下「納付命令」という。）を行い、当該納付命令が確定したとき（確定した当該納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消された場合を含む。）。

六 この契約に関し、乙が独占禁止法第3条の規定に違反し、又は乙が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が乙又は当該事業者団体（以下「乙等」という。）に対し、独占禁止法第7条若しくは第8条の2の規定に基づく排除措置命令（以下「排除措置命令」という。）を行い、当該排除措置命令が確定したとき。

七 この契約以外の乙の取引行為に関して、乙が独占禁止法第3条の規定に違反し、又は乙が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が、乙等に対し、納付命令又は排除措置命令を行い、これらの命令が確定した場合において、これらの命令に乙等に独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為があったとされた期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示され、この契約が、当該期間（これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が乙等に対し納付命令を行い、これが確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間を除く。）に入札（見積書の提出を含む。）が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。

八 この契約に関し、乙（法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。

2 前項の規定は、甲に生じた実際の損害の額が違約金の額を超える場合において、甲がその

超える分の損害を損害金として請求することを妨げない。

(報告)

第 11 条 乙は、作業終了後すみやかに甲に作業終了の報告をしなければならない。

(検査)

第 12 条 甲は、前条の報告があったときは、当該届出を受理した日から 10 日以内に検査を行わなければならない。

(契約金の支払)

第 13 条 甲は、前条に定める検査に合格した後、乙から適法な請求書を受領した日から 60 日以内に契約金を支払うものとする。

(損害賠償)

第 14 条 甲は、第 8 条又は第 9 条第 2 項の規定によりこの契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。

(担保責任)

第 15 条 甲は、乙が本契約履行後に提出した成果品について 1 年以内に契約の内容に適合しないものであることを発見したときは、契約不適合である旨を乙に通知し、修補又は既に支払った契約金額の一部を返還させることができるものとする。

(延滞金)

第 16 条 乙は、第 8 条第 4 項の規定による契約金額の返還又は第 10 条の規定による違約金等の支払いを甲の指定する期間内に行わないときは、当該期間を経過した日から支払いをする日までの日数に応じ、民法（明治 29 年法律第 89 号）第 404 条で定める法定利率で計算した額の延滞金を甲に支払わなければならない。

(守秘義務)

第 17 条 甲及び乙は、この契約の履行に際し、知り得た相手方の秘密を第三者に漏らし、又は利用してはならない。

(個人情報の取扱い)

- 第 18 条 乙は、甲から預託を受けた個人情報（生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述又は個人別に付された番号、記号その他の符号により当該個人を識別できるもの（当該情報のみでは識別できないが、他の情報と容易に照会することができ、それにより当該個人を識別できるものを含む。）をいう。以下同じ。）について、善良な管理者の注意をもって取扱う義務を負わなければならない。
- 2 乙は次の各号に掲げる行為をしてはならない。ただし、事前に甲の承認を受けた場合は、この限りではない。
- (1) 甲から預託を受けた個人情報を第三者（再委託等する場合における再委託等先を含む。）に預託若しくは提供又はその内容を知らせること。
 - (2) 甲から預託を受けた個人情報を本契約の目的の範囲を超えて使用、複製、又は改変すること。
- 3 乙は、甲から預託を受けた個人情報の漏洩、滅失、毀損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

- 4 乙は、甲から預託を受けた個人情報について、作業終了、又は解除をした後に速やかに甲にその媒体を返還するとともに、乙が保存している当該個人情報について、復元不可能な状態に消去し、その旨を甲に通知しなければならない。ただし、甲が別に指示したときは、その指示によるものとする。
- 5 乙は、預託を受けた個人情報の取扱いに係る業務を第三者に再委託等してはならない。ただし、事前に甲に対して、再委託等業務の内容、再委託等先の詳細等甲が要求する事項を書面により通知し、甲の承認を得た場合は、この限りではない。
- 6 乙は、前項のただし書に基づく再委託等を行う場合において、再委託等先に対して本条に規定する措置及び義務を遵守させるため、必要な措置をとらなければならない。また、第7項に規定する検査について、預託する個人情報等の秘匿性等その内容やその量等に応じて甲が必要と認めるときは、甲所属の職員又は甲の指定する職員若しくは乙が実施する。
- 7 甲は、預託する個人情報等の秘匿性等その内容やその量等に応じて必要があると認めるときは、甲所属の職員又は甲の指定する者に乙の事務所又はその他の業務実施場所等において、甲が預託した個人情報の管理体制、実施体制及び管理状況について検査をさせ、乙に対して必要な指示をすることができる。
- 8 乙は、甲から預託を受けた個人情報について漏洩、滅失、毀損、その他本条にかかる違反等が発生した場合、又はそのおそれが生じた場合には、適切な措置を講じるとともに、甲にその旨を通知して、必要な対応策を甲と協議する。
- 9 乙は、自らの故意又は過失により生じた前項の事故により、甲に損害が生じた場合には、その賠償の責めに任ずるものとする。
- 10 第1項及び第2項の規定については、作業終了、又は解除をした後であっても効力を有するものとする。

(本契約に関する疑義の決定)

第19条 この契約書に規定がない事項及び疑義のあるときは、甲乙協議のうえ定めるものとする。

この契約の締結を証するため、本契約書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各1通を保有するものとする。

令和 年 月 日

甲 茨城県つくば市小野川16-2
国立研究開発法人国立環境研究所
理事長 木本 昌秀

乙

(別紙)

再委託等承認申請書

年 月 日

国立研究開発法人国立環境研究所
理事長 木本 昌秀 殿

住 所
会 社 名
代表者氏名

本件業務の実施に当たり、下記により業務の一部を再委託等したく、本件契約書第4条の規定に基づき承認を求めます。

記

- 1 業務名：
- 2 契約金額： 円（税込み）
- 3 再委託等を行う業務の範囲：
- 4 再委託等を行う業務に係る経費： 円（税込み）
- 5 再委託等を必要とする理由：
- 6 再委託等を行う相手方の商号又は名称及び住所：
- 7 再委託等を行う相手方を選定した理由：

以上

担当者等連絡先

部署名：

担当者名：

責任者名：

TEL：

E-mail：

(別紙6)

暴力団排除等に関する誓約事項

当社（個人である場合は私、団体である場合は当団体）は、下記事項について、入札書（見積書）の提出をもって誓約いたします。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、国立研究開発法人国立環境研究所（以下「貴所」という。）の求めに応じ、当方の役員名簿（有価証券報告書に記載のもの（生年月日を含む。）。ただし、有価証券報告書を作成していない場合は、役職名、氏名及び生年月日の一覧表）及び登記簿謄本の写しを提出すること並びにこれらの提出書類から確認できる範囲での個人情報情報を警察に提供することについて同意します。

記

1. 次のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。
 - (1) 契約の相手方として不適当な者
 - ア 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
 - イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
 - ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
 - エ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき
 - (2) 契約の相手方として不適当な行為をする者
 - ア 暴力的な要求行為を行う者
 - イ 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者
 - ウ 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者
 - エ 偽計又は威力を用いて国立研究開発法人国立環境研究所の業務を妨害する行為を行う者
 - オ その他前各号に準ずる行為を行う者
2. 暴力団関係業者を再委託又は当該業務に関して締結する全ての契約の相手方としません。
3. 再受任者等（再受任者、共同事業実施協力者及び自己、再受任者又は共同事業実施協力者が当該契約に関して締結する全ての契約の相手方をいう。）が暴力団関係業者であることが判明したときは、当該契約を解除するため必要な措置を講じます。
4. 暴力団員等による不当介入を受けた場合、又は再受任者等が暴力団員等による不当介入を受けたことを知った場合は、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うとともに、発注元の貴所へ報告を行います。

5. 貴所の規程類及び法令を遵守して不正、不適切な行為に関与せず、また、貴所の職員等から不正行為の依頼等があった場合には拒絶するとともに、その内容を貴所に通報し、さらに内部監査、その他調査等において、取引帳簿の閲覧・提出等の要請に協力します。

(参考) 国立研究開発法人国立環境研究所 規程・規則等

<https://www.nies.go.jp/kihon/kitei/>

(参 考)

紙入札に当たっての留意事項

1. 本調達に関する質問回答について
本調達に関する質問回答書は当研究所HP上で閲覧可能である。
2. 入札書について
入札書については、応札者において適当部数コピーの上、記名し用意すること。
なお、代理人をもって入札する場合の記名は、必ず委任状で委任される者のものと同一とする。
3. 委任状について
 - 1) 代理人が応札する場合には必ず委任状を提出すること。
 - 2) 本社（代表者等）から直接委任を受ける場合には、代理人の委任状（別紙3）を、支社等を
経由して委任を受ける場合には、支社長等への代理人の委任状（別紙3）と支社長等から復代
理人への委任状（別紙4）の両方を用意すること。
4. 資格審査結果通知書の写しを用意すること。
5. 郵送による入札を行う場合においても、資格審査結果通知書の写し等必要書類を提出するこ
と。

仕様書

- 1 件 名 令和7年度国立研究開発法人国立環境研究所
土壌汚染状況調査業務
- 2 実施場所 国立研究開発法人国立環境研究所（以下「N I E S」という。）
（茨城県つくば市小野川 16-2）
- 3 業務概要
本業務はN I E S内における新規計画建築物の工事に伴い、土壌汚染対策法（以下「法」という）の調査、届け出のための資料作成を行うことを目的とする。土壌汚染対策法第3条第7項ただし書の確認に係る土地の形質の変更の手続きに伴い、土壌汚染状況調査を実施する。
- 4 業務内容
 - 1) 調査計画
 - ・業務着手時、中間及び成果物納入時の打合せを行う。
 - ・貸与資料を確認し、現地調査計画書を作成し、施設内道路上での土壌採取作業等のスケジュールについて、施設管理者と協議を行う。
 - 2) 土壌汚染調査
 - ・調査地点位置測量を行う。
 - ・試料を採取し、試料分析を行う。
 - ・調査結果に基づき、報告書を作成する。※各項目の詳細及び上記以外の内容は特記仕様書参照。
- 5 業務期間
業務期間は、契約日から令和7年9月30日までとする。
- 6 業務実施上の条件
本業務の業務責任者として、以下の1) 及び2) の要件を全て満たす者を配置できること。
 - 1) 配置予定技術者の資格
下記の資格を有するものとする。
 - ・土壌汚染調査技術管理者
 - 2) 配置予定管理技術者に必要とされる同種業務の実績
下記に示される「同種業務」について、平成27年度以降に完了した業務において、1件以上の実績を有しなければならない。
 - ・同種業務：敷地面積が10,000 m²以上である土壌汚染調査
- 7 成果物の提出
請負者は、業務契約期間終了時まで以下に以下の成果物をNIES 担当者へ提出するものとする。
 - (1) 業務完了報告書 1部

報告書の仕様は、契約締結時における国等による環境物品等の調達の推進等に

関する法律（平成 12 年法律第 100 号）第 6 条第 1 項の規定に基づき定められた環境物品等の調達に関する基本方針（以下「基本方針」という。）の「印刷」の判断の基準を満たすこと。

ただし、当該「判断の基準」を満たすことが困難な場合には、NIES 担当官の了解を得た場合に限り、代替品による納品を認める。

なお、印刷物にリサイクル適性を表示する必要がある場合は、以下の表示例を参考に、裏表紙等に表示すること。

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔A ランク〕のみを用いて作製しています。

なお、リサイクル適性が上記と異なる場合は NIES 担当者と協議の上、基本方針(<https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/net/kihonhoushin.html>) を参考に適切な表示を行うこと。

8 検 査

本業務終了後、NIES 担当者立会いによる本仕様書に基づく検査に合格しなければならない。

9 協議事項

本業務に関して疑義が生じたときは、速やかに N I E S 担当職員と協議の上、その指示に従うものとする。

10 その他

- (1) 請負者は、本業務実施に係る活動において、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）の趣旨に則り、グリーン購入を推進するよう努めるとともに、物品の納入等に際しては、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（令和 2 年 2 月 7 日変更閣議決定。以下「基本方針」という。）で定められた自動車を利用するよう努めるものとする。
- (2) 現地調査に当たっては、安全管理に留意すること。
- (3) 添付の参考数量積算書は、調査費見積のための参考資料である。項目や数量等をよく確認すること。

令和7年度 国立研究開発法人国立環境研究所
土壤汚染状況調査業務

特記仕様書

令和7年6月

国立研究開発法人国立環境研究所

第一章 総則

1－1 適用範囲及び一般事項

- (1) 本委託の入札に当たっては、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和 22 年法律第 54 号）等に抵触する行為を行ってはならない。
- (2) 本委託の業務に当たっては、本特記仕様書のほかに以下の図書を適用する。

ア 土壤汚染対策法（平成 14 年法律第 53 号）

イ 土壤汚染対策法施行令（平成 14 年政令第 336 号）

ウ 土壤汚染対策法施行規則（平成 14 年環境省令第 29 号）

エ ㈱全国地質調査業協会連合会

「全国標準積算資料（土質調査・地質調査）令和 5 年度改訂歩掛版」（令和 5 年 9 月）

オ 環境省 水・大気環境局 水環境課土壤環境室

「土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン（改訂第 3.1 版）」（平成 31 年 3 月）（令和 4 年 8 月更新）

カ 環境省 水・大気環境局 環境管理課環境汚染対策室

「指定調査機関に関するガイドライン」（平成 31 年 3 月）（令和 7 年 4 月改訂）

キ その他、土壤汚染対策法関係法令、通達等による。

1－2 費用の負担

業務の検査等に伴う必要な費用は、本仕様書に明記のないものであっても、原則として請負者の負担とする。

1－3 法令等の遵守

請負者は、業務の実施に当り、関連する法令等を遵守しなければならない。

1－5 資料の貸与

本委託の履行に当たっては、必要に応じ以下の資料を貸与する。

- (1) 敷地図CADデータ（JWWまたはDXF形式）
- (2) 令和 6 年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壤汚染状況調査 計画書作成業務報告書（令和7年5月）

1－6 業務指示

- (1) 本委託の履行に当たっては、監督員が発行する指示書に従い業務を行うものとする。
- (2) 受託者は、指示のあった業務について、指定する履行期限までに業務を完了させなければならない。ただし、これによりがたい場合は、監督員と協議するものとする。

1－7 事故防止

受託者は、仕様書に基づき、作業実施中の事故等の発生がないよう安全管理し、万が

一事故等が発生したときは、応急措置等所定の措置を講ずるとともに、事故発生の原因及び経過並びに事故による被害の内容等について遅滞なく監督員に報告すること。

1－8 秘密の保持

受託者は、作業中知り得たことについて他にもらしてはならない。

1－9 成果品の所有権

本委託の成果品等は、全て国立研究開発法人国立環境研究所に帰属する。また受託者は他に公表、貸与及び使用してはならない。

1－10 参考文献

本委託で使用した参考文献及び住宅地図等資料は、出典を明らかにし、複写を届け出として使用するための手続きを行うことコピーを提出すること。

1－11 その他

仕様書に定めのない事項及び疑義の生じた場合は、監督員と協議すること。

第二章 共通事項

2－1 委託目的

本委託は、国立研究開発法人国立環境研究所の施設整備にあたり土壤汚染対策法（以下「法」という）の調査、届け出のための資料作成を行うことを目的とする。土壤汚染対策法第3条第7項ただし書の確認に係る土地の形質の変更の手続きに伴い、土壤汚染状況調査を実施する。

2－2 委託箇所、面積

- (1) 委託箇所 茨城県つくば市小野川16-2（住居表示、地番表示）
- (2) 委託面積 土地の形質の変更申請面積： 17,165.23m²（CAD求積値）

2－3 打合せ

打合せは、業務着手時、中間及び成果物納入時の各1回とする。業務着手時及び成果物納入時は、原則として主任技術者が参加すること。

2－4 計画、準備

貸与資料を確認し、現地調査計画書を作成すること。また現地調査にあたり、施設内道路路上での土壤採取作業等のスケジュールについて、施設管理者と協議を行うこと。

2－5 測量用機器の検定

測量機器は、作業に適したものを使用すること。なお、使用する機器のうちトータルステーションについては、第三者機関の検定を実施した機器を使用すること

2－7 交通及び保安上の措置

受託者は、測量、調査区域内に車両又は歩行者の通行があるときは、これらの通行に十分な施設を設置するとともに、必要に応じて交通整理員を配置すること。

第三章 土壌汚染（表土）調査

3-1 調査内容

本委託における土壌汚染（表土）調査の項目及び数量は、以下のとおりとする。

表1 測量調査数量一覧

項 目	数 量	備 考
位置測量	217地点	・土壌ガス試料採取地点 ・土壌試料採取地点 ※配管下調査地点は表層土壌調査地点を兼ねる

表2 試料採取数量一覧

項 目	数 量
土壌ガス試料採取	64ヶ所
土壌試料採取（地表）～0.5mまで※1	217ヶ所
土壌試料採取（配管下）～1.6mまで	4ヶ所
舗装掘削（表層部のコアリング）※2 コンクリート舗装等厚さ20cmまでの場合	140ヶ所
土壌試料採取孔埋戻し	217ヶ所

※1土壌試料採取は、詳細調査（絞り込み）の実施を想定し、統合を除く全ての単位区画で土壌試料採取を行うものとする。土壌分析の結果をもとに必要に応じて分析を行い、分析検体数が追加された場合は、設計変更を行うものとする。

※2コアリングは、想定数量であり、現地の埋設状況や地中障害物等により、増減する可能性がある。

表3 試料分析数量一覧

項目		土壌ガス現地分析	土壌溶出量試験	土壌含有量試験
第一種特定有害物質	12 物質	64 検体	—	—
第二種特定有害物質	9 物質	—	70 検体	70 検体
第三種特定有害物質	5 物質	—	70 検体	—

表 4 分析対象物質一覧

項 目		土壌ガス現地分析	
第一種特定有害物質 12 物質を対象とする	トリクロロエチレン	64検体	
	テトラクロロエチレン		
	ジクロロメタン		
	四塩化炭素		
	1, 2-ジクロロエタン		
	1, 1-ジクロロエチレン		
	1, 2-ジクロロエチレン		
	1, 1, 1-トリクロロエタン		
	1, 1, 2-トリクロロエタン		
	1, 3-ジクロロプロペン		
	ベンゼン		
	クロロエチレン		
項 目		土壌溶出量試験	土壌含有量試験
第二種特定有害物質	鉛	70 検体	70 検体
	砒素		
	フッ素		
	カドミウム		
	シアン		
	六価クロム		
	水銀		
	ホウ素		
	セレン		
項 目		土壌溶出量試験	
第三種特定有害物質	シマジン	70検体	
	チウラム		
	チオベンカルブ		
	有機リン化合物		
	PCB (ポリ塩化ビフェニル)		

3-2 位置測量

- (1) 作業項目は、次のとおりとする。

位置測量 土壌ガス試料採取地点及び土壌試料採取地点 計217地点

- (2) 単位区画の設定に当たっては、現地状況や貸与資料を確認の上、既往調査と継続性をもった区画を設定すること。
- (3) 事業内容を十分理解し、監督員から受託者に貸与する資料を基に、試料採取地点の位置測量を行うこと。

3-3 土壌調査（表土調査）

- (1) 作業項目は、次のとおりとする。

ア 土壌ガス試料採取 1ヶ所当たり1検体（GL-0.8～1.0mの試料を採取し1検体）

イ 土壌ガス分析 現地分析により、土壌汚染対策法に定められた時間内に分析を行うこと。

ウ 土壌試料採取

①表層土壌 表層及び GL-5cm～50cm の試料を採取し、5 地点均等混合法により 1 検体とする。

②配管下土壌 配管下～50cm（想定深度GL-1.6m）の土壌試料を採取し、1検体とする。

エ 土壌分析 計量証明事業所による公定分析を行うこと。

- (2) 土壌試料採取孔は、現地状況に合わせた復旧を行うこと。

3-4 報告書の作成

基本的事項、調査結果を記述し、また汚染原因に係る汚染状態の基準との比較評価、及び汚染の存在範囲、地盤特性、拡散予測等について考察し報告する。

3-5 土壌汚染対策法提出書類（土壌汚染状況調査報告書等）の作成

土壌汚染対策法3条8項に対応する土壌汚染状況調査報告書を作成し、つくば市の管轄行政へ提出するための資料を作成する。

届け出にあたり、土地の利用履歴調査結果は、「令和6年度国立研究開発法人国立環境研究所 土壌汚染状況調査 計画書作成業務」において作成された地歴調査結果報告書を必要に応じて更新し、添付すること。

土壌汚染状況調査結果報告書の提出時期は、令和7年9月10日とする。

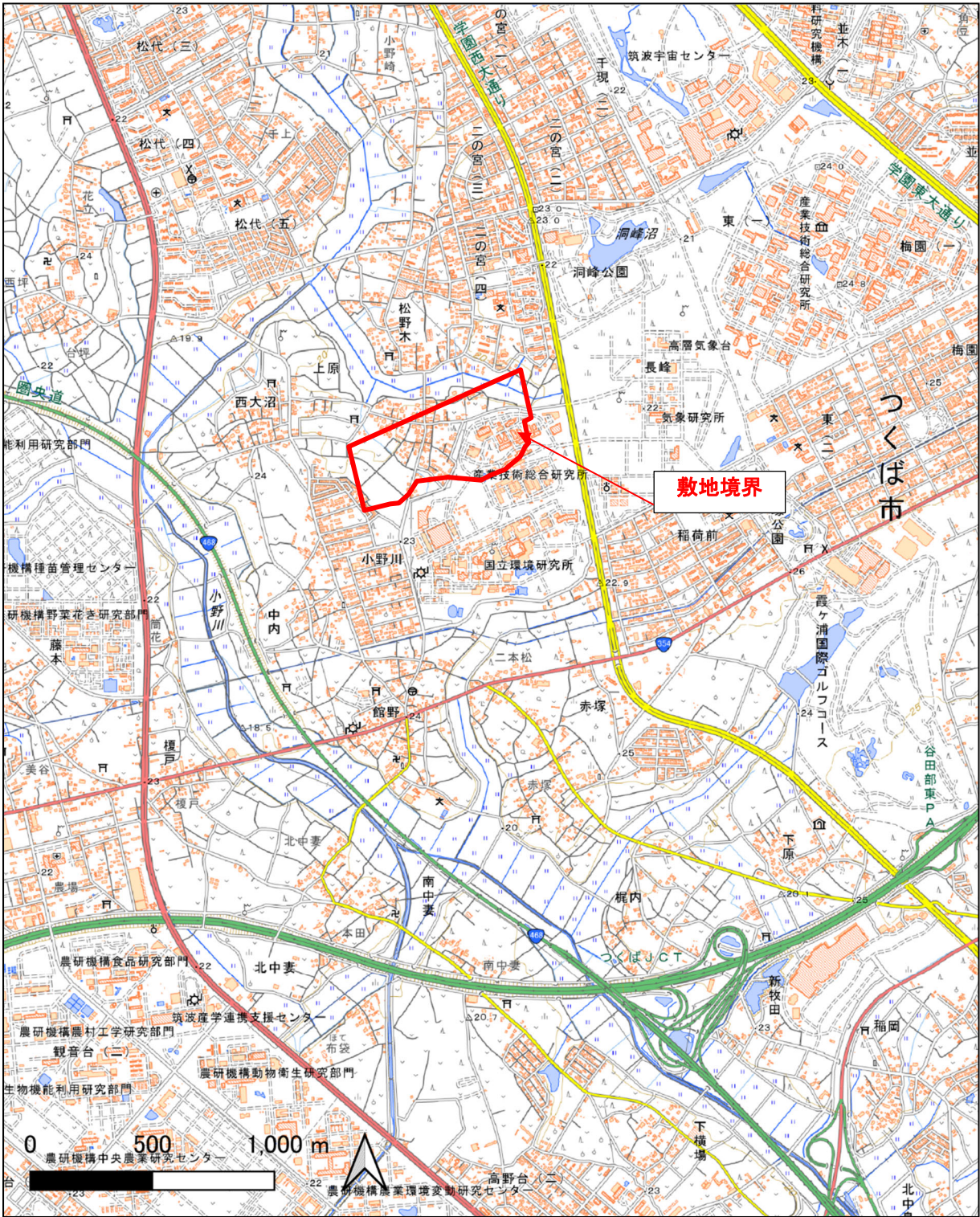
第四章 提出書類

4 提出書類

(1) 本委託の報告書等は、下記のとおり作成し提出すること。

- ア 報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1部（A4ファイル綴）
- イ 環境保全課等提出書類（土壌汚染状況調査報告書等）・ 2式
- ウ 上記の電子記録媒体（CD-R）・・・・・・・・・・・・ 1部

案内図



出典：国土地理院 地理院地図を加筆

土壤概況調査 調査地点（別紙）

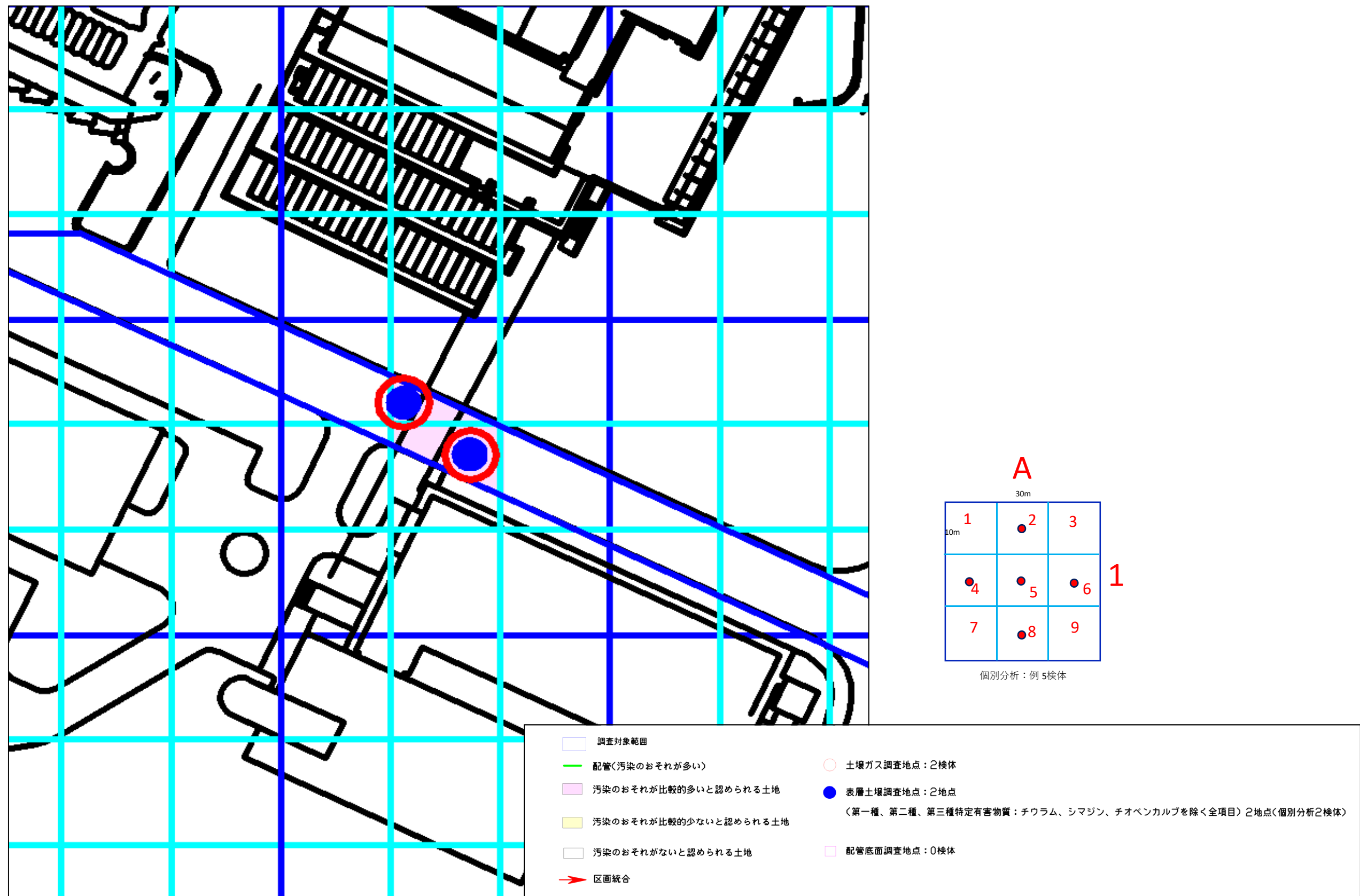


図2-調査計画図1(拡大図)

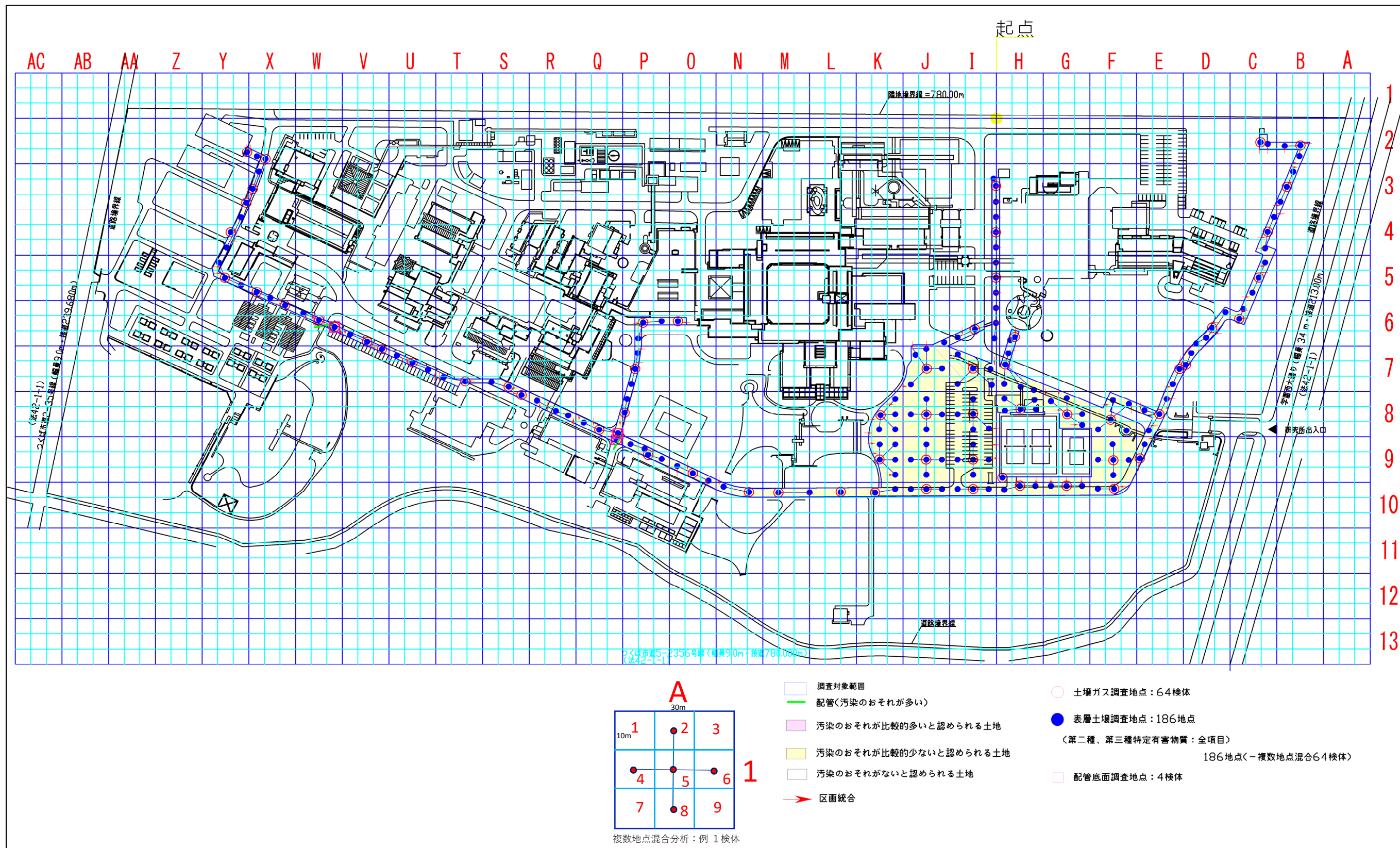
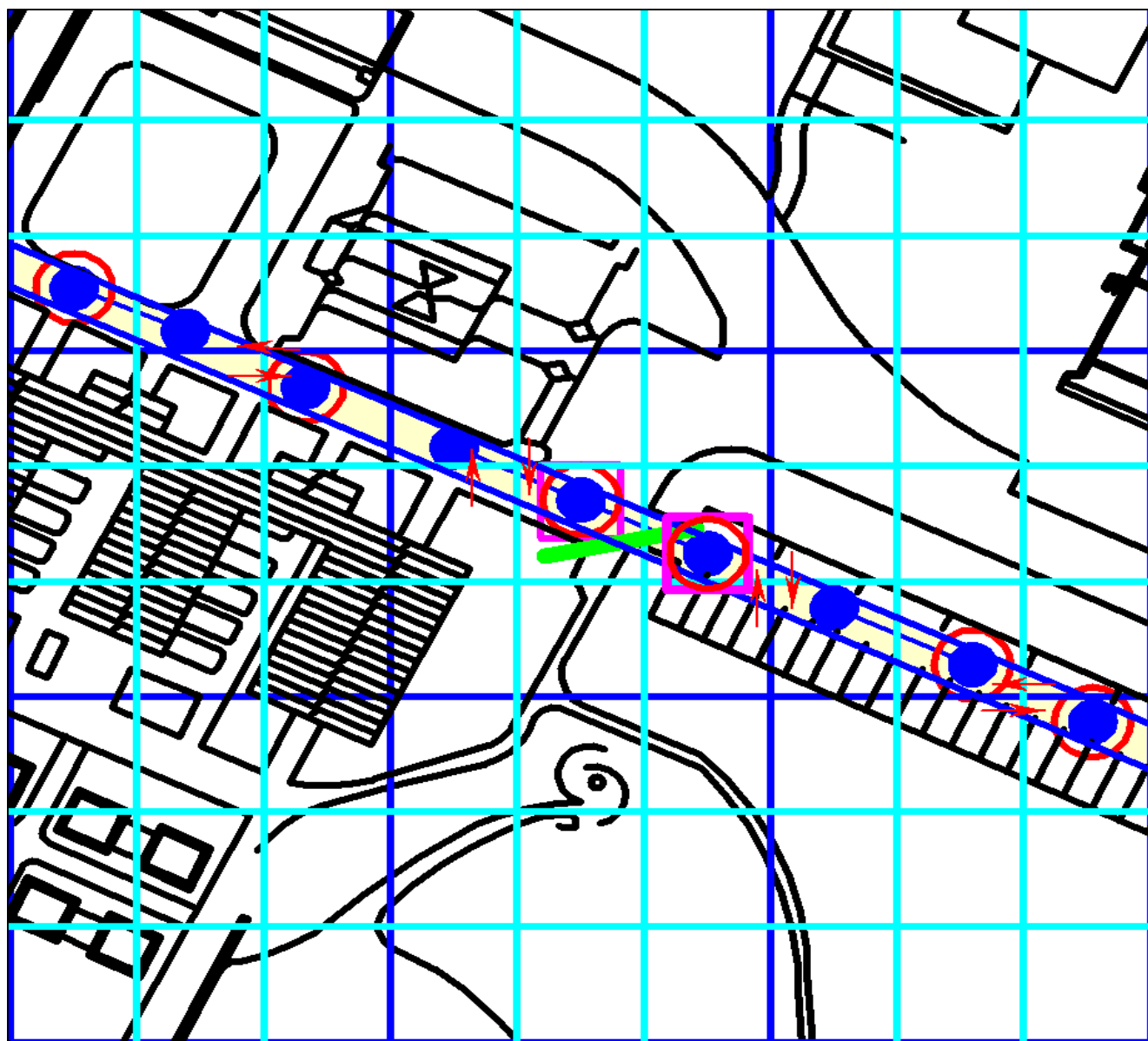
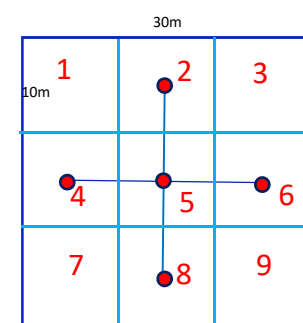


図3-調査計画図2



A



複数地点混合分析：例 1 検体

1

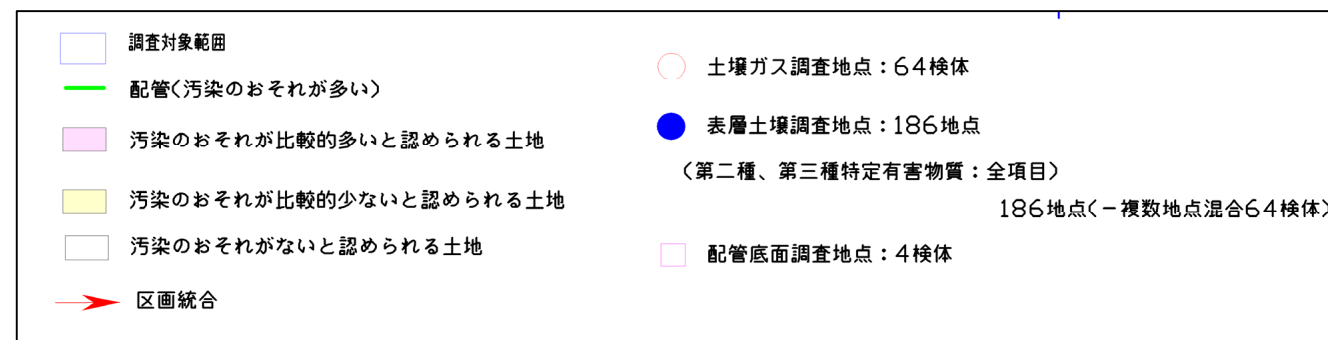
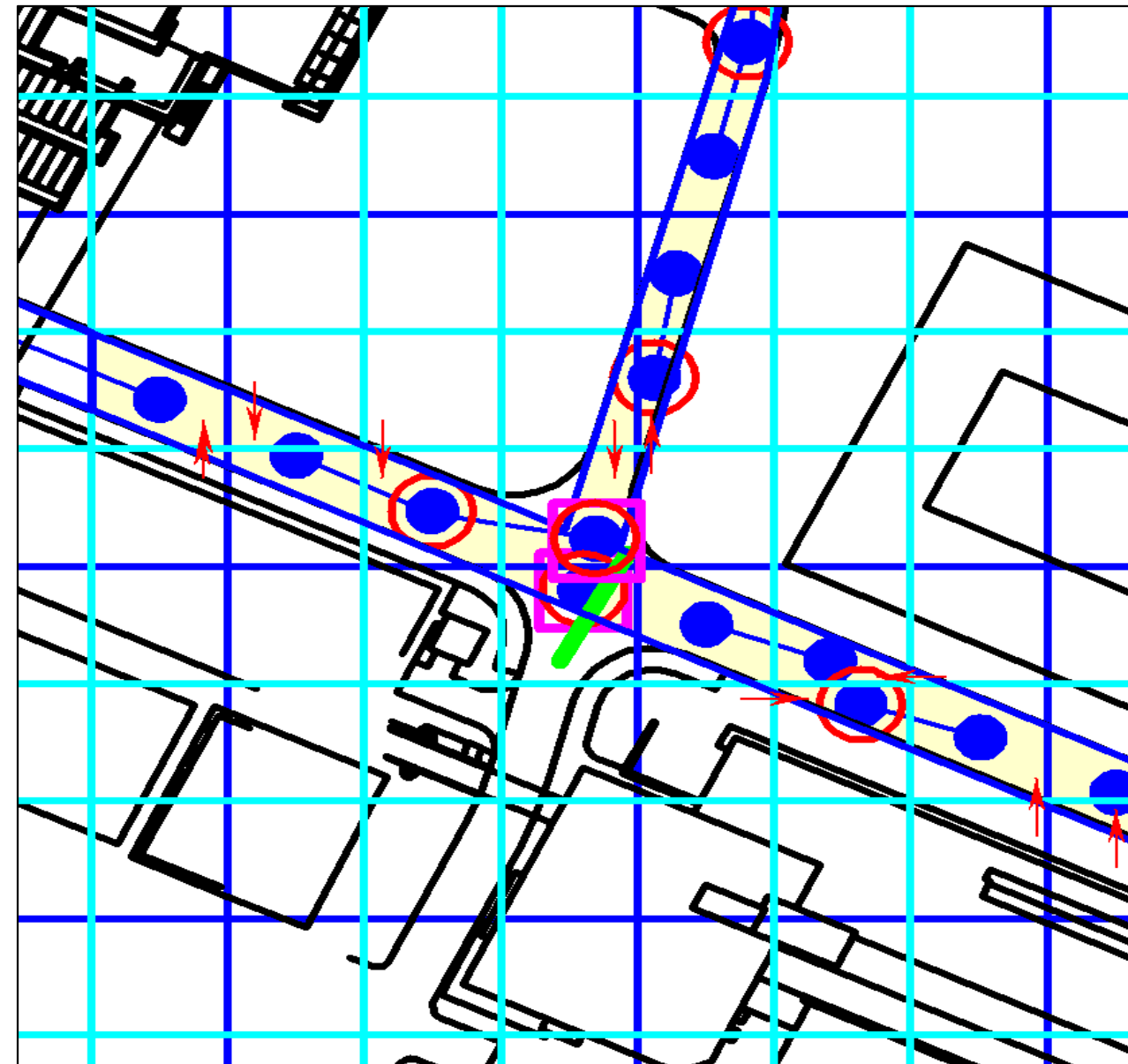


図4-調査計画図2(拡大図)

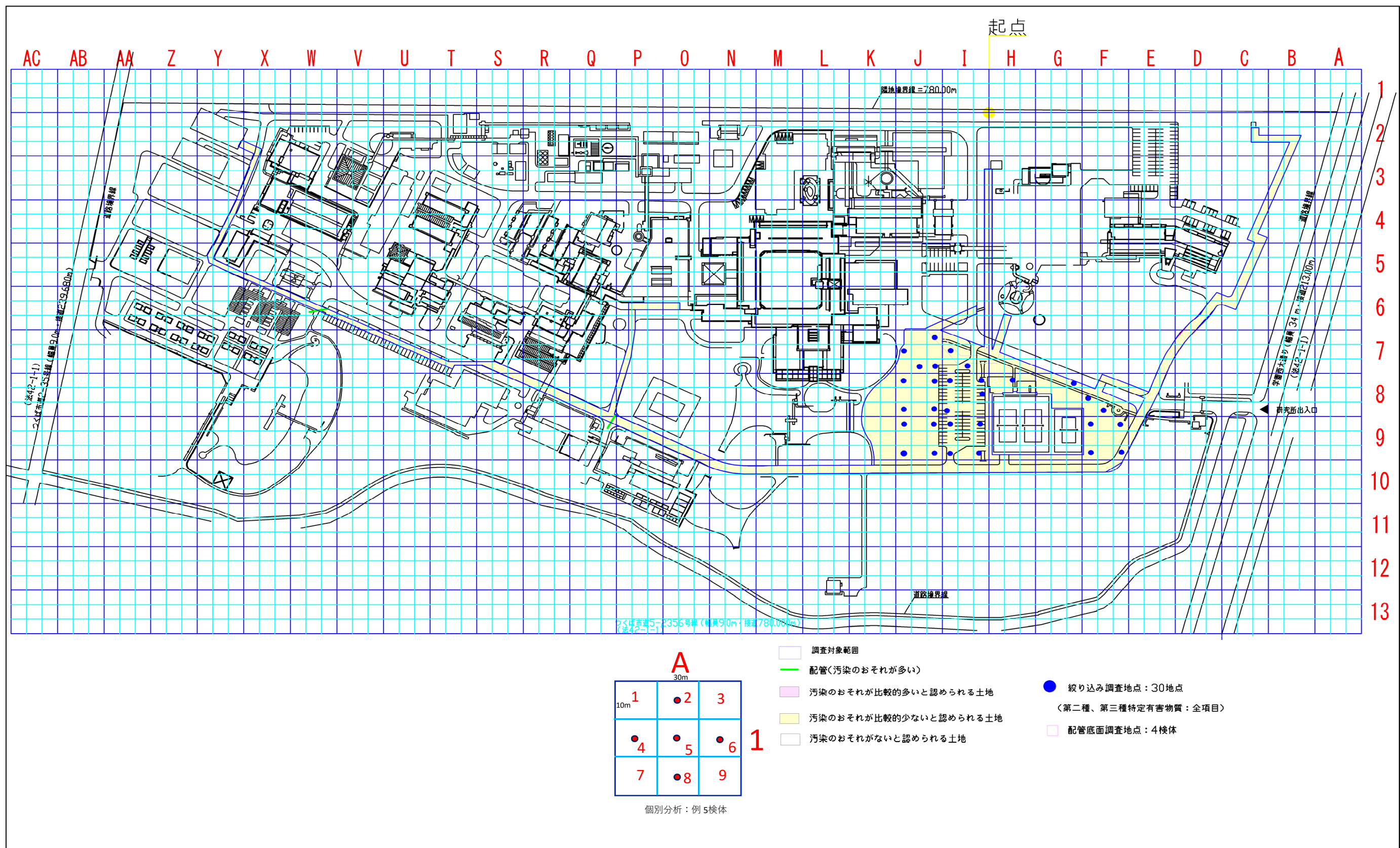


図5-調査計画図3

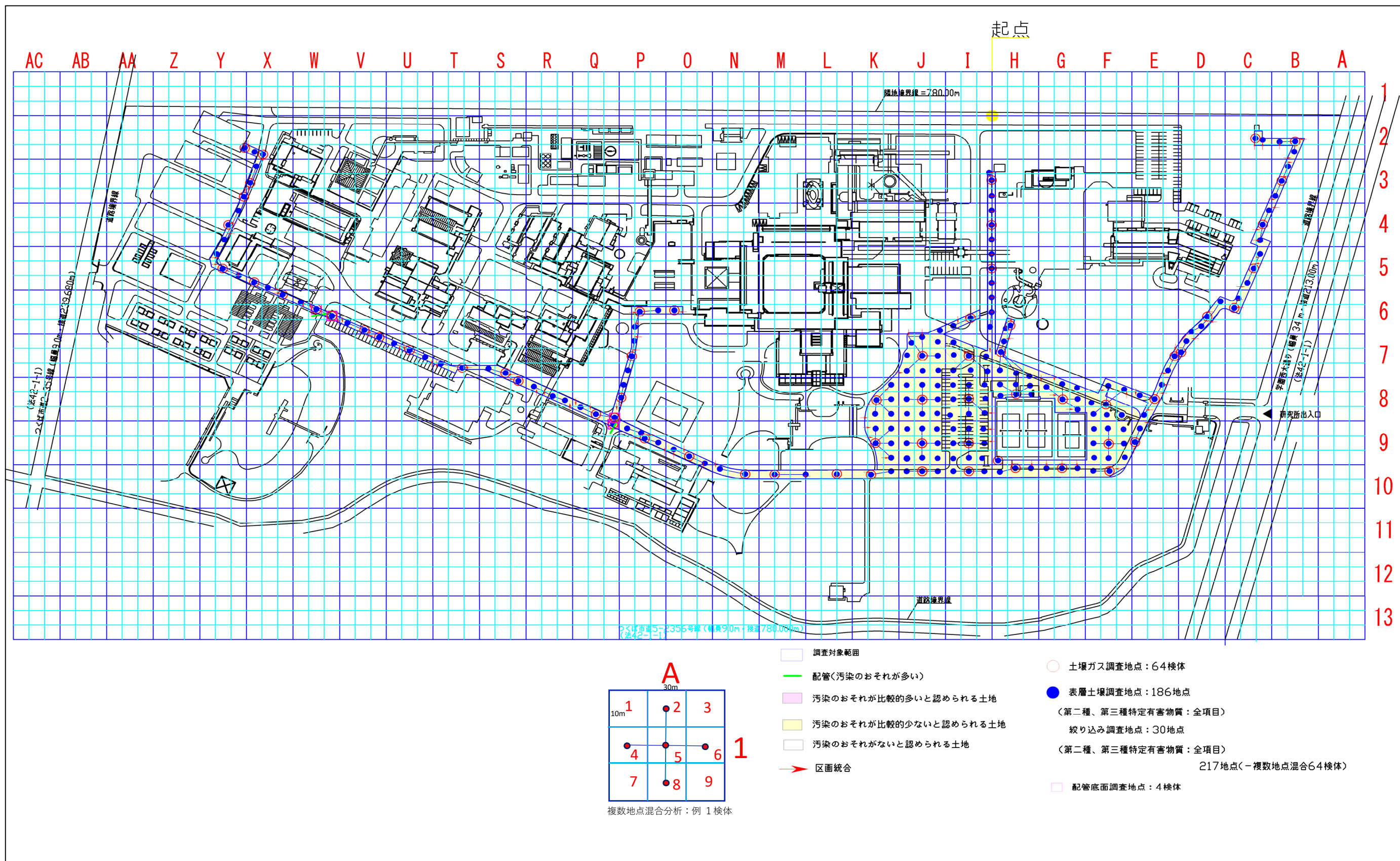


図6-調査計画図4

名 称	規格	数 量	単位	単価	金 額
I 地質調査業務					
(1)直接調査費					
試料採取作業費					
表土調査 位置測量	屋外平坦地	日	4		
表土調査 土壌ガス試料採取	捕集バック法 未舗装	日	5		
表土調査 土壌ガス現地分析	捕集バック法 未舗装	日	5		
表土調査 埋設物事前確認		日	5		
表土調査 舗装掘削(表層部のコアリング)	コンクリート舗装等 厚さ20cmまでの場合	箇所/日	140		
舗装簡易復旧	常温合材 レミファルトS (3.5kg/箇所)	箇所	140		
表土調査 土壌試料採取	未舗装 採取深度 GL-0.5mまで	日	13		
表土調査 土壌試料採取	予備試料採取分	日	2		
表土調査 土壌試料採取孔埋戻し	未舗装 採取深度 GL-0.5mまで	箇所	217		
前処理費	溶出液作成料	検体	70		
小 計					
第二種特定有害物質(溶出)					
カドミウム	溶出	検体	70		
六価クロム	溶出	検体	70		
シアン	溶出	検体	70		
総水銀	溶出	検体	70		
セレン又はその化合物	溶出	検体	70		
鉛	溶出	検体	70		
ヒ素	溶出	検体	70		
ふっ素	溶出	検体	70		
ほう素	溶出	検体	70		
小 計					
第三種特定有害物質(溶出)					
シマジン	溶出	検体	70		
チオベンカルブ	溶出	検体	70		
チウラム	溶出	検体	70		
PCB	溶出	検体	70		
有機リン	溶出	検体	70		
小 計					
第二種特定有害物質(含有)					
ヒ素	含有量	検体	70		
カドミウム	含有量	検体	70		
六価クロム	含有量	検体	70		
シアン	含有量	検体	70		
総水銀	含有量	検体	70		
セレン又はその化合物	含有量	検体	70		
鉛	含有量	検体	70		
ふっ素	含有量	検体	70		
ほう素	含有量	検体	70		
小 計					
直接調査費合計					
直接経費					
電子成果品作成費		式	1		
地質調査業務合計					
(2)間接調査費					
施工管理費		式	1		
旅費交通費	地質調査業務(通勤)	式	1		
間接調査費合計					
純調査費		式	1		
諸経費		式	1		
地質一般調査業務価格		式	1		
II 地質解析業務					
(1)直接原価					
計画準備		業務	1		
表土調査 打合せ協議	表土調査	業務	1		
表土調査 行政申請書類の作成	行政協議	回	1		
考察・報告書作成(土壌汚染調査)	対象地面積 100,000m ² ～1,000,000m ² 未満	件	1		
直接経費	成果品作成費	式	1		
直接原価合計		式	1		
その他原価	α 35%	式	1		
業務原価		式	1		
一般管理費等	α 35%・β 35%	式	1		
地質解析等調査業務価格		式	1		